

# JET からの手紙

## 日本と世界をつなぐ懸け橋 ～東日本大震災で亡くなったモンティさんを偲んで～

(一財) 自治体国際化協会JETプログラム事業部

4月25日、岩手大学と立教大学は、岩手県陸前高田市の協力により、旧市立米崎中学校の校舎の2階と3階に、「陸前高田グローバルキャンパス」を開設し、国内外の教育研究および幅広い交流を図り、地域創生を担う人材の育成や地域社会の創造を市民と共に推進する活動拠点とすることとなりました。

その2階に、東日本大震災の津波で亡くなった陸前高田市JET・ALT モントゴメリー・ディクソンさん(米国アラスカ州アンカレッジ出身)を記念して「モンティ・ホール」が設けられ、ご遺族(姉と兄)も出席して除幕式が行われました。

モンティさん(彼の通称名)は2009年8月に陸前高田に赴任し、市立中学校5校、小学校11校を担当していました。児童生徒・学校関係者からの人気が高く、皆から「モンティ先生」の愛称で親しまれていました。アラスカ大学で日本語を勉強し、北海道大学と名古屋大学に2年間留学した彼は、優秀な成績で、アラスカ大学指導教授の原田宏子教授にJETプログラム参加を勧められ、将来は日本語教師になり、日米交流に尽すことが夢でした。



モントゴメリー・ディクソンさん

モンティさんは小中学校16校を担当する多忙なスケジュールにもかかわらず、さらにボランティアで市内小中学校生徒希望者を対象とした英語教室も開いていました。また、消防団チームの一員として市民マソン駅伝の部に2年連続参加したり、懇親会で漫才や演

歌を披露したり、青少年ホームの料理教室に参加したり、国際交流協会の日本語教室に生徒としてのみならず、時には教える立場で参加していたほか、市内外の各種行事、お祭り等に多く参加し、1年半の間に、彼のことを知らない市民はいないと言っていいほど、陸前高田市民全員から愛されていたとのことでした。

同じく東日本大震災の津波で亡くなったテイラー・アンダーソンさん(宮城県石巻市JET・ALT)については、その後ご両親や石巻市ALTの同僚の活動により(モンティさんは高校の時に両親を亡くし、また、陸前高田にALTは一人だけだった)、映画が作成されたり、テイラー文庫の活動が行われ、比較的知られているのに比べ、モンティさんについてはあまり知られていないので、この度、岩手大学・立教大学陸前高田グローバルキャンパス内に「モンティ・ホール」が開設されたことを、自治体国際化協会としても歓迎しています。

これが今後広く活用され、JET・ALTとして大活躍してくれたモンティさんの遺志が長く引き継がれていくことを心より願います。

### 人生を捧げた懸け橋づくり

ここで、「モンティ・ホール」の除幕式で行われた、モンティさんの姉であるシェリー・フレドリック氏によるスピーチ(抜粋)を紹介します(原文は後掲)。

『まず、こちらのホールをモンティ・ホールと命名することを提案してくださった戸羽市長に、感謝を申し上げます。ありがとうございます。』

そして、グローバルキャンパスの設立に取り組み、この場所や除幕式など、これらすべての機会を与えてくだ

さった岩手大学と立教大学にも感謝を申し上げます。このようにモンティの功績が認められて、感無量です。



モンティ・ホールの除幕式

大学と大学、大学と市民、日本と世界。

陸前高田グローバルキャンパスが目標として掲げているのは、この異なる人やグループを結びつけていくことです。こちらで新たな知識とものを創り出し、共有することにより、さらに新しい懸け橋が生まれてきます。

在アンカレジ日本領事事務所に日本での JET としての生活について感想文を頼まれた際、モンティは陸前高田での生活について、こう述べました：「JET プログラムに参加できて、大変嬉しく思っています。陸前高田で英語を教えながら、素敵な地域の皆様に色々教えてもらっています。私は、先生でありながら、生徒でもあります。個人的に、こんなにやりがいのある経験はほかにないでしょう。」

モンティの言葉からお分かりになると思いますが、これこそは「懸け橋」というものです。モンティが、自分の言葉を教えることにとどまらず、日本の言葉も、文化も、家族や友達の付き合いも学ぶように心がけたのです。

モンティを一先生、一個人としてだけでなく、友達や家族の一員のように温かく迎え入れた陸前高田の皆さんに感謝しています。皆さんのおかげで、陸前高田がモンティの「第二の故郷」となりました。

建物やインフラだけでなく、人の心も精神も再建された街。これは、戸羽市長や陸前高田市の皆さんが先見の明を持って描いた陸前高田市の未来です。グローバルキャンパスのような教育機関に投資することも、その未来を実現するための施策の一つです。

震災の日、モンティは、友達のために、ある司馬遼太郎のエッセイを翻訳しました。その一句は：「世のためにつくした人の一生ほど、美しいものはない。」と。

陸前高田グローバルキャンパスのミッションは、モンティが目指していた目標と同じであり、私たちが目指すべき目標だと考えます。心ある市民として、モンティが生前行ったように私たちは陸前高田のコミュニティへの貢献を続けていきます。

モンティに代わって、皆さんに心よりお礼を申し上げます。

たいと思います。このようにモンティを記念していただき、また、モンティが望んでいた懸け橋づくりを続けていただき、ありがとうございます。』

## モンティさんが残したもの

モンティさんが残したものは、「モンティ・ホール」だけではありません。アラスカ大学アンカレジキャンパス (UAA) 在学中から彼の姿を良く知る先述の原田宏子教授は、当時の思い出を次のように振り返っています。

『モンティは UAA で日本語を専攻しましたので、私は彼の指導教官でした。ある時クラスの問題につき研究室に立ち寄ったことがあります。話しているうちに、高校の時に亡くなったお母様が天から見守っていること、モンティにはこの地上で特別な使命があるという話になり、君は号泣しました。二人で一緒に泣いたこと、昨日のこのように鮮明に思い出されます。別れ際に、立派な日本研究家になれと背中を叩いて押し出しましたが、翌日からこれまで以上に勉学に励み日本留学が実現しました。「日本にいる今が僕の人生の中で一番幸せです。これまでの指導をありがとう」という留学先からのメールには泣かされました。

卒業前の最後の学期は新渡戸稲造の「武士道」を読みました。そして、君は太平洋の架け橋となるという新渡戸の志をそのまま受け継いで、JET・ALTとして日本に飛んでいきました。派遣先の陸前高田からの、「ここは気候が穏やかだし、自然が多いし、とても住みやすい所です。町の皆さんも優しく、僕に興味津々です…子どもたちは元気いっぱい…毎日とても楽しいです。」というメールからは、モンティが楽しく、一生懸命子どもたちに英語を教えている姿がうかがわれました。日本の文化・習慣などをいつも詳しく調べて授業に活かしていた彼は、まさに有望な日本研究家への道をまっしぐらに歩んでいました。そんな矢先、津波で命を落としてしまいました。

でも、モンティの夢は津波に奪われませんでした。Japan Foundation CGP の5年にわたる「モンティのメモリアル事業」の協力の下、しっかりと継がれてきました。津波の翌年には UAA に Montgomery Dickson 日本語日本文化教育センターが設置されました。このセンターの設置を受け、2013年には、UAA の教職員の陸

前高田市および岩手大学への訪問が実現し、以後の交流の基が築かれました。2014年には日本語上級の教科書「モンティの明日への架け橋」が出版されました。米国大学の日本語教師と共に2年かけて作成したものです。2015年にはUS-Japan Council-TOMODACHIの特別協賛により、UAA—岩手大学共同の合同学生交流が実現し、両大学の学生が陸前高田に集まり共同で市の復興プロジェクトに携わりました。2016年にはUAA—岩手大学の提携が結ばれ、交換留学生第一号がUAAより派遣されました。同年11月には、茶道に深い関心を寄せていたモンティを偲び、UAAに茶室が完成しました。今年にはUAA・米国日本語教師陣、並びに岩手大学地域防災研究センターの共同作業で、JET・ALTのための「防災ドリルブック」を執筆しています。モンティ、君の夢

はUAAのみならず岩手大学の後輩・教師陣、全米日本語教師、陸前高田市、アンカレジ市、そして仲間たちの手によって受け継がれ、今大きく実っていますよ。』

## 日本と世界をつなぐ

現在、日本では40カ国の国からのJET参加者が活躍しています。ALT(外国語指導助手)、CIR(国際交流員)、SEA(スポーツ国際交流員)と職務は異なりますが、それぞれの参加者がモンティさんのような高い志で国際交流の発展に貢献し、日本と世界をつなぐ懸け橋を今後ますます築いていくことを願ってやみません。

以下はシェリー・フレドリック氏によるスピーチの原文(抜粋)

THE JAPAN, EXCHANGE, AND TEACHING PROGRAMME

# JET LETTER

## Continuing Monty's Legacy

I was told that the naming of the Montgomery Dickson Hall was the suggestion of Mayor Toba. For that I want to say 'Thank you'. I also want to thank Iwate University and Rikkyo University for making this opportunity possible with the creation of the Global Campus. It is very touching for Monty to be recognized with this honor.

The mission of the Global Campus is to connect people, to bring together separate groups: different academic institution, academia and the citizenry, the people of Japan and the global community. And through that shared communication, creation and learning, new bridges will be formed.

Monty was asked by the Japanese Consulate in Alaska to write an essay about his life as a JET. I would like to share a quote from this essay, in Monty's words how he felt about his life in Japan...

'I am very grateful that I was accepted into JET. I learn a lot from the fantastic people of Rikuzentakata while having fun teaching English. I am a teacher here, but at the same time I am a student. Personally, I can't think of a more rewarding experience'.

This quote shows the true embodiment of being a bridge between people, because Monty went beyond being a teacher and sharing his language, but became a student receiving Japanese

language, culture, friendship, and family. I am grateful to the people of Rikuzentakata. They not only welcomed Monty as a person and teacher, but also as a friend and a part of their families. This community gave him a second home.

Mayor Toba and the people of Rikuzentakata have had the foresight to envision a plan for rebuilding the city, not just physically and structurally, but also emotionally and spiritually, for an educated future. Investments in our schools, such as this Global Campus, continue that vision.

In the spirit of everyone working for such a noble goal, I'd like to offer you the following quote. On the day of the tsunami, Monty translated for a friend a line of an essay by the author Ryotaro Shiba: 'There is nothing as beautiful as dedicating one's life for a cause'.

The mission of the Global Campus, the same cause to which Monty dedicated himself, is one worthy of pursuing. As citizens of the heart, we will continue to give back to the community of Rikuzentakata as Monty did in life.

On behalf of our brother Monty, thank you for recognizing him with his honor, and thank you for continuing the bridge building work in which he so believed.

英語